

感染症ニュース

No.257 2026/10/23

文責：竹鼻 純子

<流行中の感染症>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)

症状は軽くなったが、高齢者は重症化しやすいので、今後も高齢者の重症化予防のために、新しい流行株に対応したワクチン接種や、高齢者施設などでの徹底した感染予防策の継続が必要で、普段の生活でも基本的な予防策を継続し、手洗いに加え、特に3密となるような場面ではマスクを着け、よく換気することが大切である。

インフルエンザ

今年は発生が早く、急速に流行が拡大した。現在の流行の主流は AH1pdm09 で、この型は昨シーズンあまり流行せず、人々の保有する抗体価が低いために拡大していると思われる。今すぐにワクチンを接種しても、完全な抗体ができるまでには3週間程度必要なので、現在の流行に対しては間に合わない可能性があり、感染予防策を徹底し、栄養を摂り、過労を避け、免疫力を落とさないようにする。

ヘルパンギーナ

富山県内で拡大している。高熱が出て、口の中に水疱ができ、痛みのために飲食ができなくなって脱水症になりやすい。時に、髄膜炎や脳炎を合併することもある。病原体となるウイルスは何種類もあり、ワクチンや特効薬は無い。

RS ウイルス感染症

夏の終わりから春先まで流行が続く。夜間に激しくなる乾いた咳が特徴で、生後数か月までの乳児が感染すると重症となり、呼吸困難に陥って死に至ることもある。高齢者も感染すると重症化しやすい。特効薬は無いが、今年4月から、母子免疫ワクチンとして、妊娠28週～36週までの妊婦に対する定期接種が始まっている。妊婦が接種することにより、母体内で作られた抗体が胎盤を通して胎児に移行し、出生直後からのRSウイルスに対する予防効果が期待されるものである。

溶連菌感染症

発熱、のどの痛み、発疹が主症状で、小児のみならず成人の感染も多く、再感染や再発例も多い。経口抗生剤が有効だが、症状が治まっても10日前後服用を続けないと腎炎などの合併症を併発する。